

榎並和春個展
-あさきゆめみし-

2026年5月7日(木) - 5月25日(月)
11:00~19:00 / 火曜・水曜 定休

【展覧会アーカイブ】

榎並和春個展 -あさきゆめみし- によせて

どこの国であったか、その地に暮らす民族の生活を写した写真集で、祈る女性の姿を見たことがあります。乾燥した地面や家畜の姿、小さな花々や土壁の家にペイントを施す人々等、その民族ならではの豊かな日々の片鱗を何ページも捲りながら眺めた最後の方に、その姿はありました。目を瞑り、地に深くひれ伏して祈るその様はあまりに真っすぐで、何の打算も持たず、ただ純粋に祈る人の姿とはこんなにも澄み渡っていて美しいのかと、目を見張るように眺めたのを覚えています。

この写真集を見せてくださったのは他でもない榎並和春さんで、43歳の時にイタリアで過ごした期間の最後の方にこの本と出会ったそうです。もともと油彩画を手掛けられていた榎並さんが、その本場であるイタリアで1年過ごした結果、却って油絵具を手放してしまったという経緯は存じておりましたが、その最終的な決め手となったものがこの写真集との出会いだったそうです。自分の生まれた場が元来携えている環境や文化や歴史、それらによる恩恵も弊害もありのままに享受しながら、そのフィールドを今生きていること。そこで生活する人たちの「普通」というものが、傍から見ればいかにその土地独自の事情であるかについて、私たちがあえて気が付く機会はそうありません。ですがひと度そうした機会を得てみると、当たり前すぎて陳腐だった日常風景の見え方が大きく旋回することがあります。榎並さんもまた、土埃が舞うような環境の中で展開される、自分が全く知らない豊かな生活が納められた写真集と出会ったことで、自分が生まれ育った場の風土へと意識が向いたそうです。結果として、自分が生きる日本という国が持つ、その豊かな土壌と文化から得られる材料を使いながら絵を描いていくという、今の混成技法絵画へと繋がっていったとのことでした。

私たちにとって身近な事物から、どこか畏怖の念を感じさせる姿まで、実に様々なモチーフの作品がこの度も届きました。親しみを感じるものも多いですが、どれ一つとってもありそうで見当たらない、懐かしい幻想を見るような余韻があります。作品が画廊に届いてからひとつずつ眺めるにつれ、私の中で自然と結びついたものが先の祈る女性の美しさでした。あまりに透明で、あまりに深く、あまりに静かなその美しさがこの度の榎並さんの作品からも認められた時、今自分が手に持って眺めるこの絵こそが「祈りそのもの」とであると、直感的に悟るようでした。人が祈る時、それがその人の精神性の根幹に近い、深い内情から湧き出る純粋な行いであればあるほど、その観念世界はどこまでも大きく広がってゆけるのかもしれませんが。そしてそういう大きなものについて、何かを言語で思考してみるには、言葉で示せる範囲はあまりに狭く、あっけなく追いつかなくなるように思います。形を持たない果てしないものを仰ぎ見るように、とめどない陽光を両の手のひらで受けとめるかのように。榎並さんの絵を成すものの一番奥底には、そんな「言葉にならないもの」が、ただ静かに流れ続けていると感じます。

(2026年 企画画廊くじらのほね 飯田未来子)

榎並 和春 -Kazuharu Enami-

1952 年生まれ。兵庫県出身。山梨県在住。アクリル絵具、パステル、墨、顔料、珪藻土、壁土、布、塗料パテ等様々な材料を用いて画面を作る絵画作品が特徴。

絵を描くにあたり、始めから何を描くかは一切決めず、支持体の上で異なる材料同士を混ぜ合わせ、時に削り、時に洗い流す等しながら独特の絵肌を練り上げていく。その中で偶発的に生じた色や形、線などから連想された事物をモチーフとして掘り下げ、一枚の絵へと昇華する制作方法をとる。まさに無から有を作り出すような作業だが、ここで生じる「有」とは、これまで自分が生きてきた中で得た経験や感性、知見、思想等の中に在る物事しか出てこないため、榎並さんにとって絵を描くことはそのまま「これまで歩んできた自らの人生を、ありのままに曝け出す」行為である。そうやって現れる作風には、誰にも真似ができない画家のオリジナリティが自然と宿り、何にも替えがたい魅力となっている。木製パネルを支持体とするタブロー画がメインだが、近年は紙を支持体に豊かな線描を入れたドローイング・シリーズも手掛ける。

1981 年より作品発表を始め、1997 年以降は個展を中心に幅広いエリアで発表を続けており、2026 年現在、当画廊での展覧会で 128 回目の個展開催となる。国画会会員。 （文章・飯田未来子）

【略歴】

1952 年 兵庫県生まれ

1981 年 山梨大学 教育学部美術科 卒業

1987 年 東京セントラル美術館大賞展 / 入選 （1989 年、1993 年 同）

1992 年 小磯良平大賞展 / 佳作賞

1992 年 JAPAN 大賞展 / 佳作賞

1993 年 印象神戸展 / 大賞

1994 年 昭和会展招待 銀座・日動画廊（1995 年 同）

1995 年 イタリア研修 1 年

1997 年以降 年間 5 回前後のペースにて、各地で個展開催

【主な個展開催会場】

ハーパーズ・ミル(甲府) / ギャラリー惣(銀座) / ギャラリー Create 洛(京都) / 山口画廊(千葉) / 企画画廊くじらのほね(千葉) / ART ギャラリー HAFU(新潟) / 松屋銀座 / 阪急うめだ本店 他

【パブリック・コレクションとしての収蔵先】

山梨県立美術館 / 山梨県立大学 / 山梨英和大学 / 山梨県文化課 / 神戸市文化課 / イタリア・ナルニ市役所

作家より展覧会によせて

携帯で文章を書く時に、五十音は毎回お世話になるのでよく使う。

しかし「いろは」はあまり意識して使う事がなかった。今回あらためて「いろは歌」を読んだら、これがけっこう奥が深くて驚いた。日本人の意識の底の方にある、無常観、深遠な哲学に触れた気がしたな。

有為の奥山今日越えて、浅き夢見じ酔ひもせず

このところずっと考えていた結論がここに書かれていた。要するに

上手く描こうとか、有名になろうとか、売れようとか、有為（作為がある）な浅い夢など見ないで、自分に酔う事もなく、ひたすら書いて無為（作為がない）に至ること、それが絵の道の極意であると。（自分なりの解釈です）

御来廊お待ちしております。

榎並 和春



鳥放つ

【作家名】榎並 和春

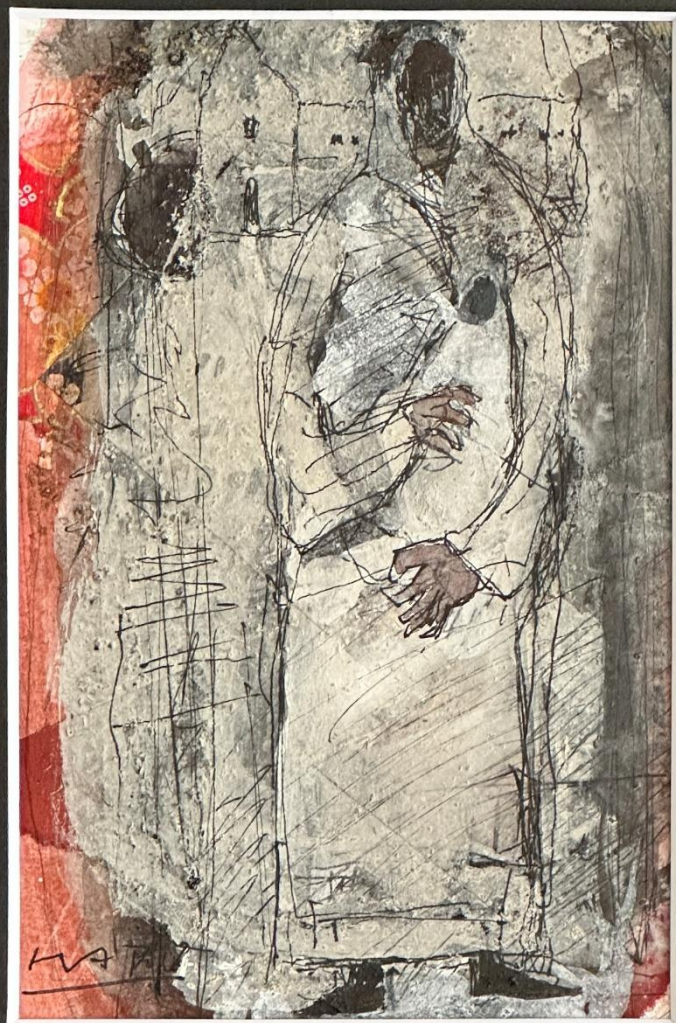
【制作年】2026 年

【画面サイズ】23×17cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)

※個人蔵



私の人生

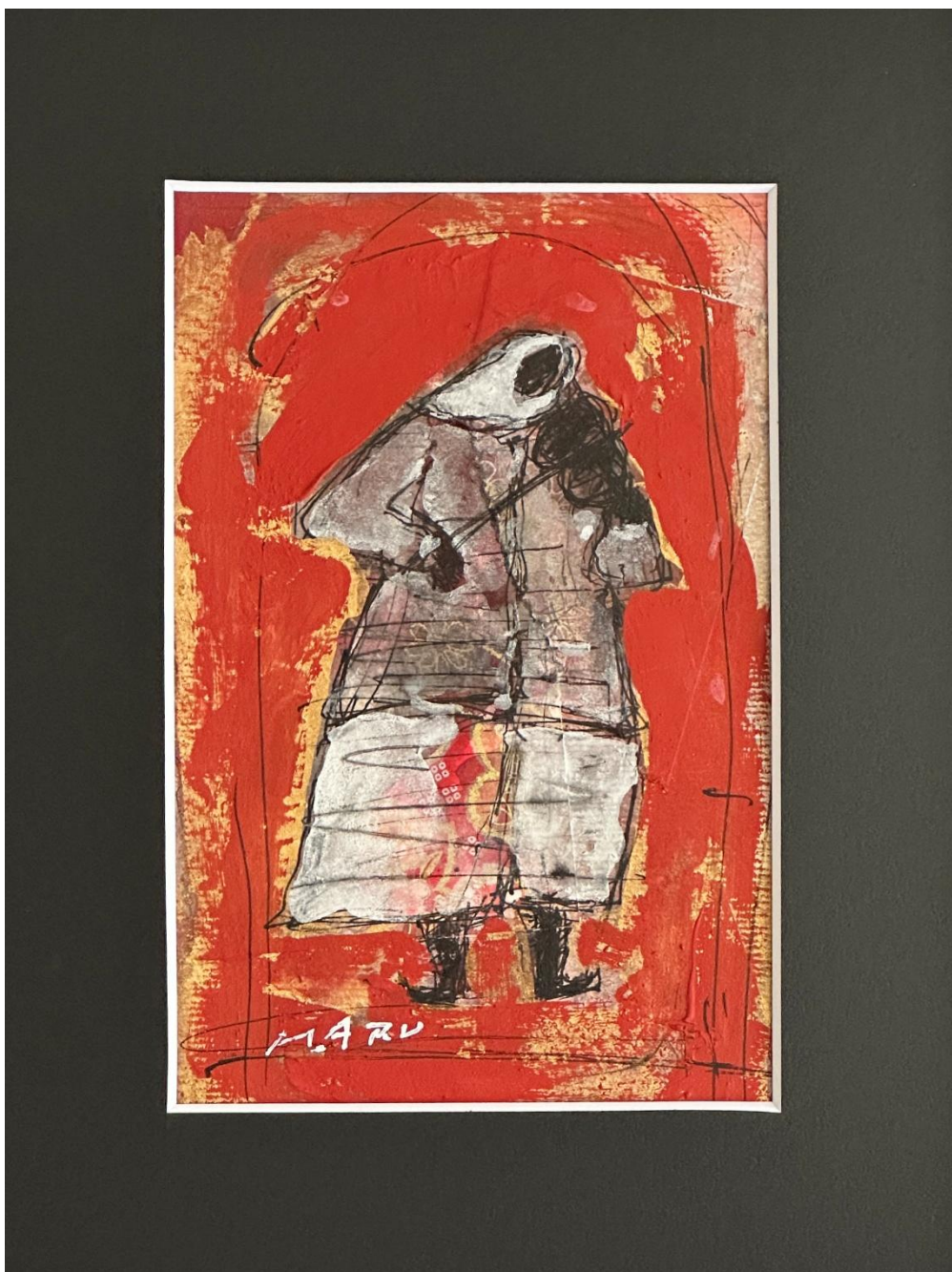
【作家名】榎並 和春

【制作年】2026 年

【画面サイズ】20×13cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)



バラーダ

【作家名】 榎並 和春

【制作年】 2026 年

【画面サイズ】 20×13cm

【画材】 画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)

※個人蔵



ギャロップ

【作家名】 榎並 和春

【制作年】 2026 年

【画面サイズ】 20×13cm

【画材】 画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)



フィナーレ

【作家名】 榎並 和春

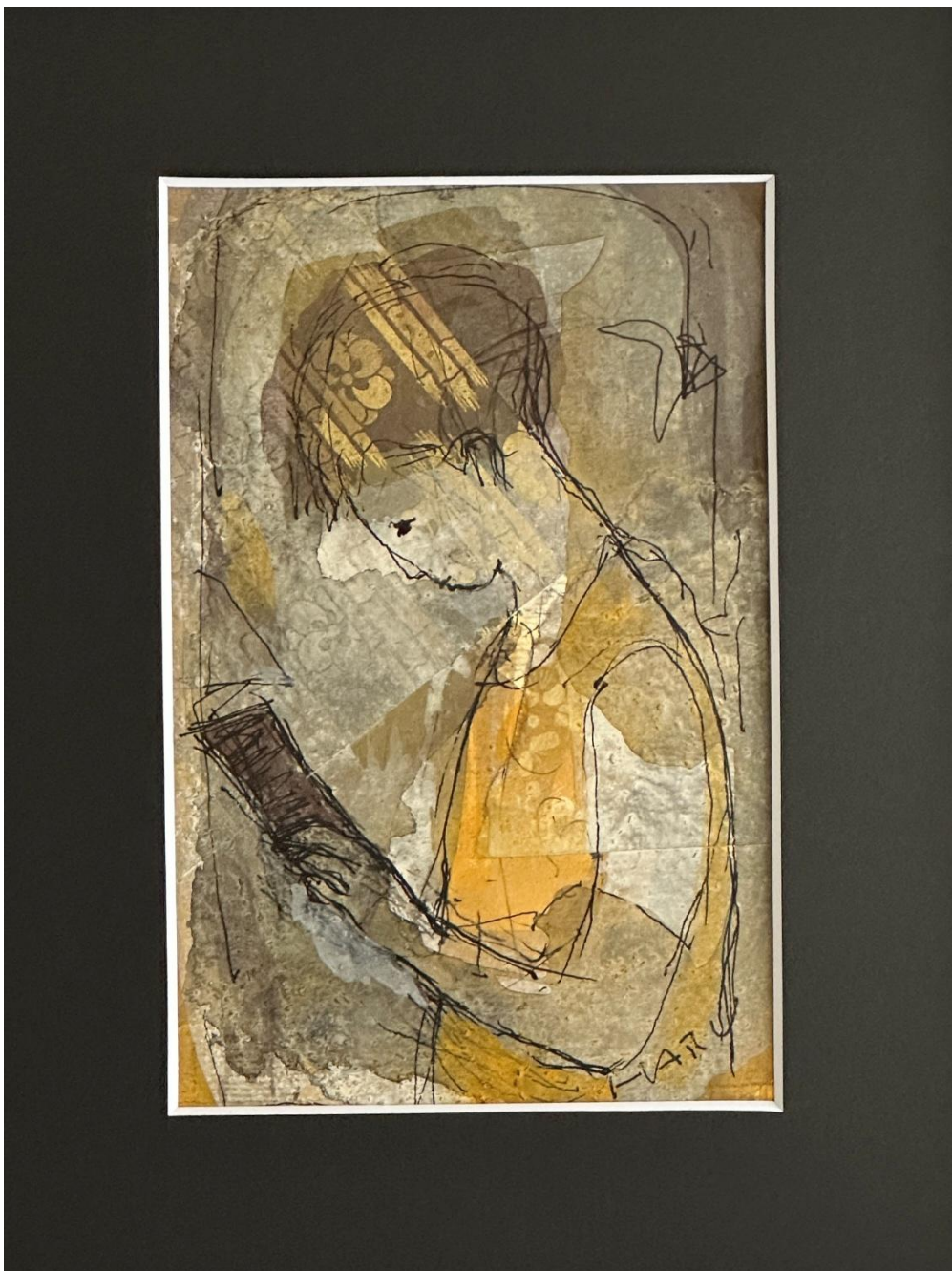
【制作年】 2026 年

【画面サイズ】 20×13cm

【画材】 画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)

※個人蔵



着信

【作家名】 榎並 和春

【制作年】 2026 年

【画面サイズ】 20×13cm

【画材】 画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)

※個人蔵



冬ごもり

【作家名】榎並 和春

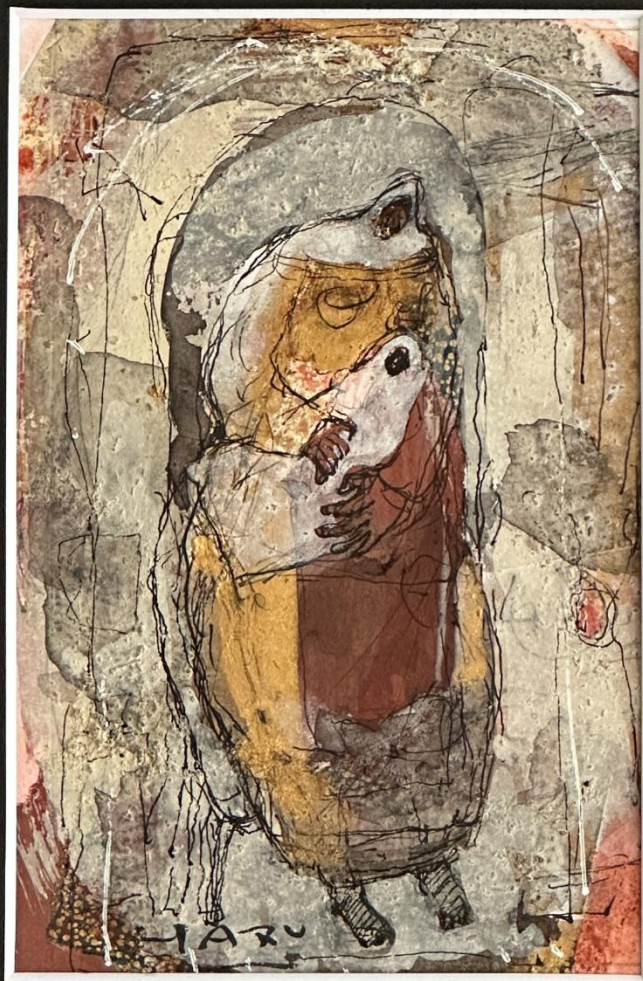
【制作年】2026 年

【画面サイズ】20×13cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)

※個人蔵



母子像

【作家名】榎並 和春

【制作年】2026 年

【画面サイズ】20×13cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)



望郷（六角堂）

【作家名】榎並 和春

【制作年】2026 年

【画面サイズ】20×13cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

（千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等）

※個人蔵



豎琴

【作家名】 榎並 和春

【制作年】 2026 年

【画面サイズ】 20×13cm

【画材】 画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)



明日がある

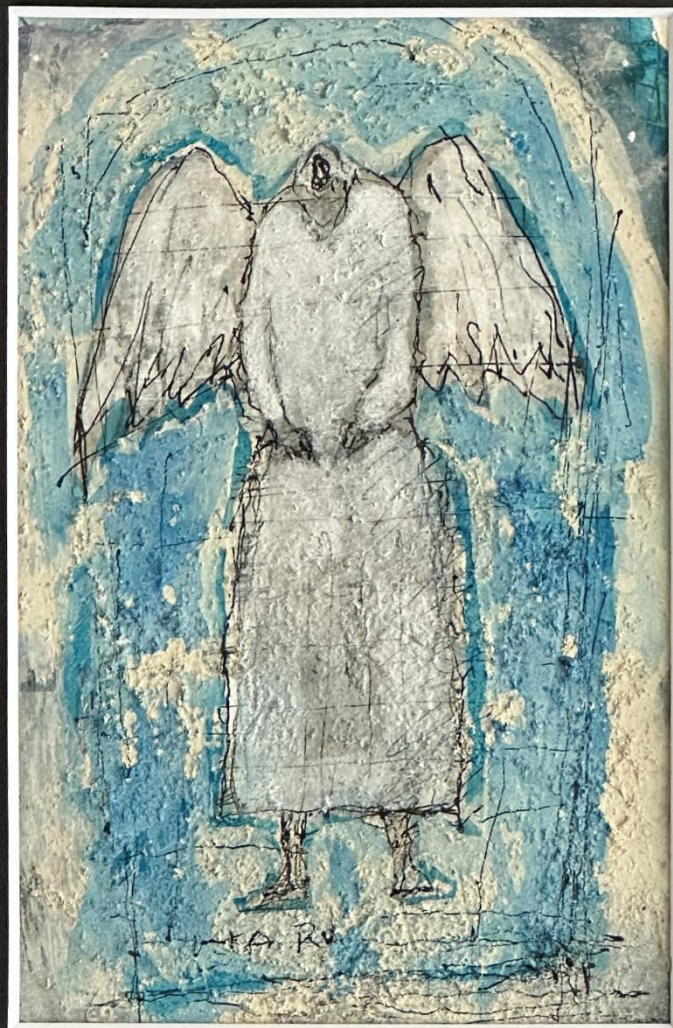
【作家名】榎並 和春

【制作年】2026 年

【画面サイズ】20×13cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)



さいわいびと

【作家名】 榎並 和春

【制作年】 2026 年

【画面サイズ】 20×13cm

【画材】 画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)

※個人蔵



ソナタ

【作家名】榎並 和春

【制作年】2026 年

【画面サイズ】22×15cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)

※個人蔵



旅の音楽家

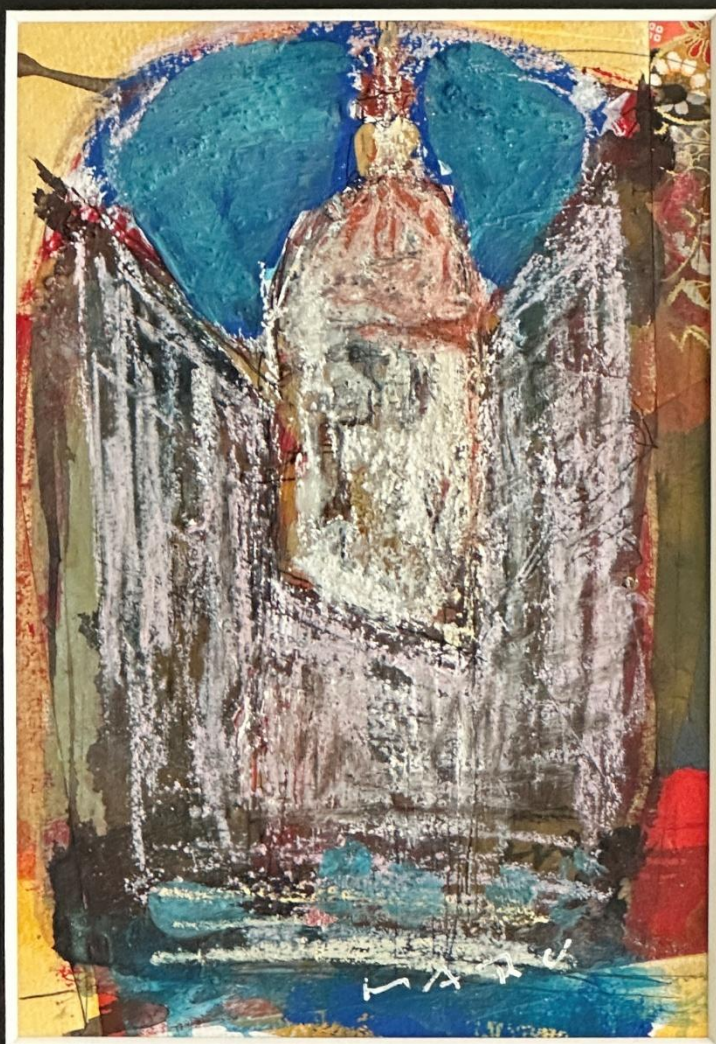
【作家名】榎並 和春

【制作年】2026 年

【画面サイズ】22×15cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)



カテドラル（シシリア）

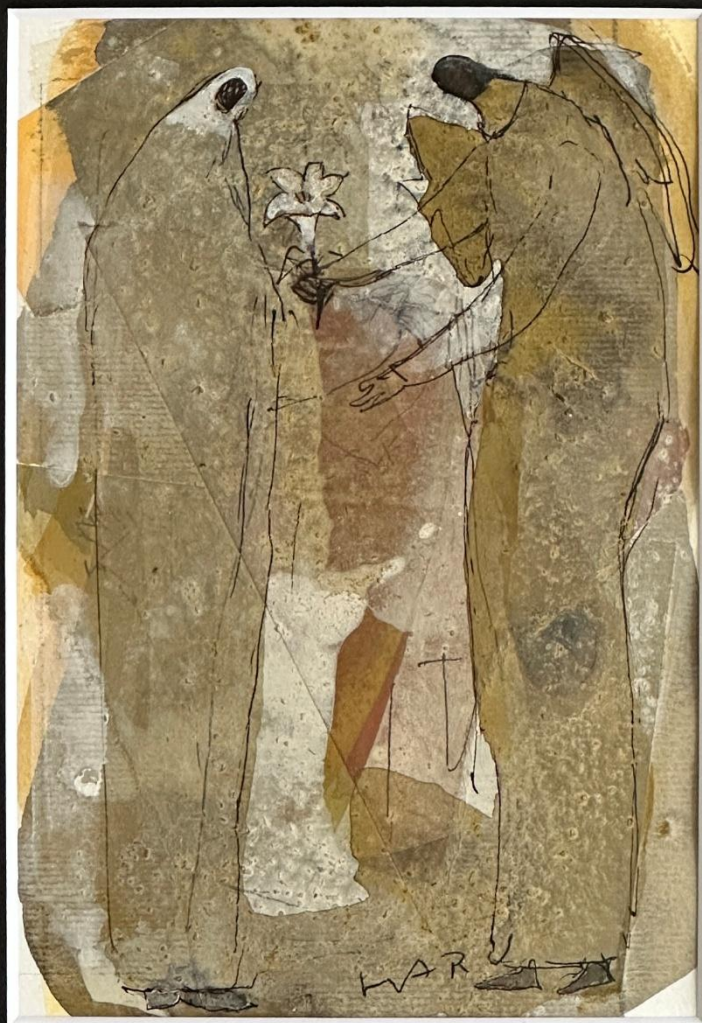
【作家名】榎並 和春

【制作年】2026 年

【画面サイズ】22×15cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

（千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等）



約束

【作家名】 榎並 和春

【制作年】 2026 年

【画面サイズ】 22×15cm

【画材】 画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)

※個人蔵



夏の少女

【作家名】榎並 和春

【制作年】2026 年

【画面サイズ】22×15cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)

※個人蔵



ノマドの家族

【作家名】榎並 和春

【制作年】2026 年

【画面サイズ】22×15cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)



嵐の予感

【作家名】榎並 和春

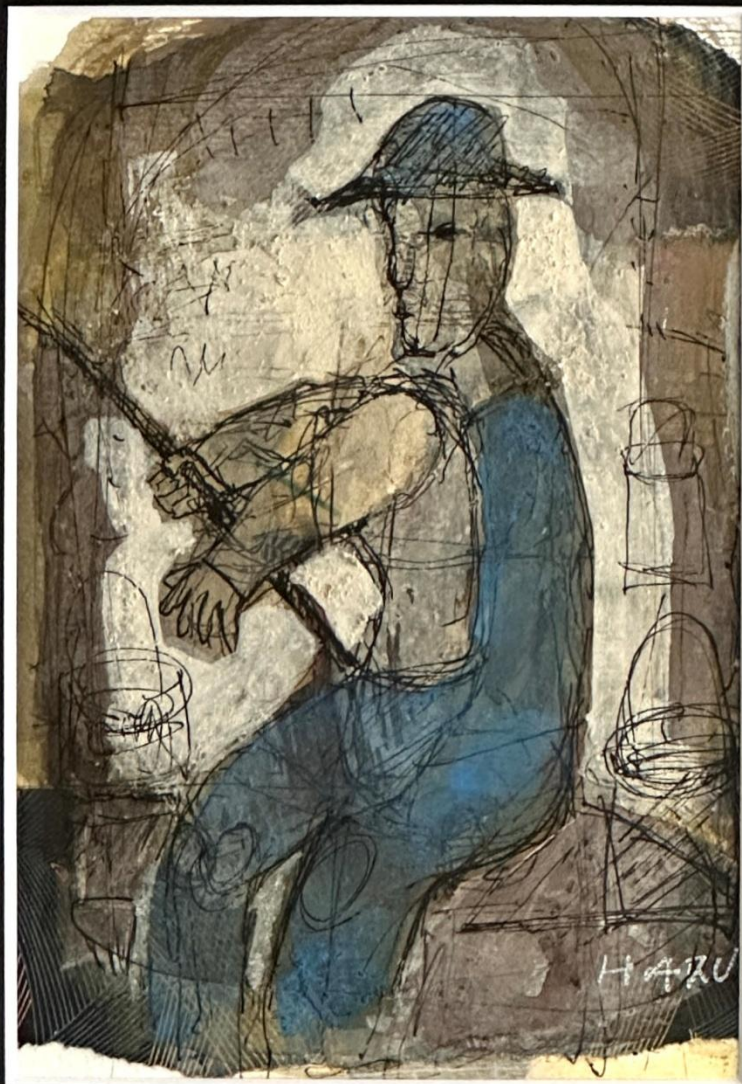
【制作年】2026 年

【画面サイズ】22×15cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)

※個人蔵



ある男の休日

【作家名】榎並 和春

【制作年】2026 年

【画面サイズ】22×15cm

【画材】画用紙/ミクストメディア

(千代紙・土・墨・顔料・木工用ボンド・アクリル絵具・パステル 等)